

修士論文

NPOにおける多セクターとの共創による包摂型地域コミュニティ生成

- 高槻市におけるアクションリサーチ -

Creating inclusive communities through multi-sectoral co-creation

as a non-profit organization

-Action research at Takatsuki city-

著者 岡本 工介

## 要旨

本研究の目的は、新型コロナ禍、社会的不利を抱える層により一層の不利がかかる中、コミュニティにどのような仕組みがあれば社会的弱者を含めた包摂がなされるのか。その課題に対し被差別部落を拠点とした社会的企業の実践に着目し、その生成プロセスを明らかにすることである。

2020 年以降、新型コロナウイルスの感染拡大により子どもの貧困の課題がさらに深刻化している。それらはとりわけ日本の社会構造上、不利を受けやすい母子世帯をはじめ様々な社会的不利を抱える家庭を直撃している。そのような社会課題の複雑化多様化に対し、セクターを超えた多セクターの共創による課題解決が求められている。

これまでの研究では、我が国における教育施策である「学校プラットフォーム」や福祉施策である「地域共生型社会の実現」において社会的不利益層の支援の必要性が語られてきた。他方、被差別部落を拠点とした学校を主体とした地域との連携による社会的不利益層を支える実践においても語られてきた。一方で被差別部落を含む地域側が主体となって学校をはじめ多セクターとの共創による実践についての研究はなされていなかった。また、実践の生成プロセスについての研究もなされていなかった。

そこで本研究では故池田寛（大阪大学教授）が 1990 年代に高槻市富田地区にフィールド調査に入った際に提言した 4 点をもとに研究を進めた。そして、高槻市にある一般社団法人タウンスペース WAKWAK という社会的企業が主体となって多セクターとの共創の中で行った包摂型地域コミュニティ生成について実践と研究の往還、すなわちアクションリサーチとして生成のプロセスに着目しながら自己内省的に描いた。

アクションリサーチの結果、まず、池田の 4 つの提起に対する結果として WAKWAK という社会的企業が①プラグマティズムの徹底により、より広く地域内外から賛同を得ながら社会課題を解決する団体への変容を遂げていた点、②支援対象範囲を富田地区か

ら市域全域に広げることを通じて、富田地区が長年培ってきた支援の独自性が明らかになった点、③地域教育推進母体の発展的な実践形態としての WAKWAK が社会的企業という組織体として地域支援のイニシアティブをもちながらその方向性についてヘッドクォーターの役割も担い、かつ社会運動を起こす起点となっていた点、④支援対象範囲の拡大による多様な社会的不利益層に対する支援への広がっていた点が見られた。また、独自の実践によって得られた知見として、①「社会的不利益層」の支援を行うため新たな事業領域を生み出すとともに公的事業の受託・運営により、事業を有機的に連動させることで独自の包摂の仕組みを生み出していた点、②独自の包摂の仕組みを通して支援が届きにくい声なき SOS (Voiceless) に対し支援を届けていた点、③事業と並行した社会運動を通じて、公助（制度）の現場に即した要件緩和や制度の充実化を促し社会変革を生み出していた点が見いだされた。

その知見をもとに、池田の 4 つの提起に対するインプリケーションとして①部落解放運動がベースとなった支援の独自性と普遍性、②多セクターの共創による社会的インパクトの拡大と WAKWAK の役割および独自の実践により知見から見出されるインプリケーションとして、①支援が届きにくい地域内外にある声なき SOS に対しての支援、②新たな官民連携の仕組み、③社会的企業の可能性、④社会運動の必要性を主張した。

本研究の限界として、①本研究で得られた成果のローカリティ色の強さと②より多様な視点からの研究が求められる。また、今後の課題として本研究成果の他地域への汎用の模索が求められる。

## **Abstract**

The purpose of this study is to clarify how communities can be inclusive for the socially disadvantaged under COVID-19 pandemic situation. The issue of child poverty has become even more serious since 2020 due to the spread of the COVID-19. These issues are particularly affecting families with various social disadvantages, including single-mother households, which are vulnerable to disadvantage due to Japan's social structure. In response to the increasing complexity and diversity of such social issues, there is a need for problem solving through multi-sectoral co-creation that transcends sectoral boundaries. In previous studies, this has been discussed in the educational policy "school platform" and welfare policy "realization of a community-based symbiotic society" in Japan. Also this has been discussed in the practice of supporting socially disadvantaged groups through collaboration between schools and communities, mainly based on the Buraku. On the other hand, there has been no research on the practice of co-creation with schools and other multi-sectoral organizations, in which the local community, including the Buraku, takes the initiative. There has also been no research on the process of creating such practices.

In this study, we conducted research based on four recommendations made by Hiroshi Ikeda (Professor at Osaka University) when he conducted field research in the Tonda area of Takatsuki City in the 1990s. The study was conducted as an action research project, in which the social enterprise Town Space WAKWAK in Takatsuki City was involved in the creation of an inclusive local community through co-creation with multiple sectors. I depicted in a self-reflective, focusing on the process of creating organization.

First, as a result of Ikeda's four propositions, the social enterprise called WAKWAK (1) through pragmatism, transformed itself into an organization that solves social issues while gaining

support from a wider range of people inside and outside the community, (2) through expanding the scope of support from the Tonda area to the entire city area, the originality of supporting system of Tonda area has found, and (3) WAKWAK, as a organization, had the initiative to support the community as a social enterprise, and also playing the role of a head quarter of its direction and as the starting point for a social movement. (4) WAKWAK has expanded the scope of its support to include support for various socially disadvantaged groups. In addition, as findings obtained through their original practices, (1) created new business areas to support the "socially disadvantaged", and (2) provided support to the voiceless who are difficult to reach support. (3) Through the social movements, promoted public assistance and improving the systems.

Based on these findings, Ikeda's four points were discussed as implications of the following:

1) the uniqueness and universality of the support based on the Buraku Liberation Movement, 2) the expansion of social impact through multi-sectoral co-creation and the role of WAKWAK.

The implications of the findings from original practice: 1) support for the voiceless in communities where support is difficult to reach, 2) new mechanisms for public-NPO partnerships, 3) the potential of social enterprises, and 4) the need for a social movement.

As an issue for the future, I clarified limitations of this study (1) the locality of the results obtained in this study and (2) the need for research from more diverse perspectives. In addition, the general application of the results of this study to other regions must be explored as a future issue.

## 目次

0. 序章 問題の背景.....	9
0.1 新型コロナ禍における不利の連鎖.....	9
0.2 孤立・孤独の問題の顕在化と多セクターによる解決の必要性.....	10
0.3 コミュニティ・オーガナイズング - 社会的包摂を実現する際の社会変革の必要性.....	11
0.4 被差別部落を拠点とする社会的企業の萌芽.....	11
1. 先行研究と問題設定.....	12
1.1 教育施策における社会的不利を抱える子ども支援.....	14
1.2 福祉施策における社会的不利を抱える子どもおよび家庭の支援.....	14
1.3 被差別部落を拠点とした学校、地域の連携による社会的不利を抱える子ども支援.....	15
1.4 被差別部落における社会的包摂をめざすまちづくり.....	16
1.4.1 隣保館を拠点としたまちづくり.....	16
1.4.2 被差別部落を拠点とした社会的包摂をめざすまちづくり.....	19
1.4.3 被差別部落を拠点とした一地区一社会企業の取組み.....	20
1.5 問題設定.....	23
2. 研究概要.....	26
2.1 フィールドの概要.....	26
2.2 研究方法.....	26
3. 富田地区における部落解放運動の歴史と「包摂型のまちづくり」への転換.....	32
3.1 富田地区における部落解放運動の歴史とまちづくり.....	32
3.2 一般社団法人タウンスペース WAKWAK の設立と組織の変遷.....	34
3.2.1 組織の立ち上げ期.....	34
3.2.2 社会的企業としての組織形態の確立.....	34

3.2.3	包摂型のまちづくりへの転換.....	38
3.2.4	財政基盤の確立.....	40
3.3	小括.....	44
4.	富田地区における多セクターとの共創による包摂型のまちづくり	
	社会的不利を抱える子どもたちの包括支援「子どもの居場所づくり事業」 .....	49
4.1	計画（planning） .....	49
4.2	実行（Action） .....	49
4.2.1	事業実践.....	49
4.2.2	実践を通じた社会変革のプロセス.....	60
4.3	小括.....	65
4.3.1	事業の評価および本章で明らかになったこと .....	65
4.3.2	次の「実行」へ向けた現状の把握と分析.....	67
4.3.3	次の実践へ向けた組織変革.....	68
5.	高槻市域、官民連携による居場所の包括連携によるまちづくり	
	市域広域包摂的なみまもりつながり事業「フェーズ1」 .....	71
5.1	計画（planning） .....	71
5.1.1	計画.....	71
5.1.2	社会的インパクト評価の導入.....	71
5.1.3	ガバナンス体制および多セクターの共創の仕組みの創設 .....	75
5.2	実行（Aciton） .....	76
5.2.1	居場所の包括連携によるモデル地域づくり（全国） .....	76
5.2.2	高槻市子どもみまもりつながり訪問事業.....	88
5.2.3	実践構築の背景にある社会運動性.....	96
5.3	小括.....	102

5.3.1	事業の評価および本章で明らかになったこと .....	102
5.3.2	次の「実行」へ向けた現状の把握と分析 .....	108
6.	高槻市域、官民連携による居場所の包括連携によるまちづくり	
	市域広域包摂的なみまもりつながり事業「フェーズ2」 .....	110
6.1	計画（planning） .....	110
6.2	実行（Aciton） .....	110
6.2.1	高槻市子どもみまもりつながり訪問事業 .....	110
6.2.2	居場所の包括連携によるモデル地域づくり（全国） .....	112
6.2.3	厚労省ひとり親等の子どもの食事等支援事業 .....	113
6.2.4	官民連携を生み出すための政治への働きかけ .....	114
6.2.5	創出された官民連携のモデル .....	118
6.3	小括 .....	121
6.3.1	事業の評価および本章で明らかになったこと .....	121
7.	まとめと考察 .....	124
7.1	見出された知見の要約 .....	124
7.2	本稿全体を通して見出された知見 .....	127
7.2.1	池田の4つの提起に対するアクションリサーチ結果 .....	127
7.2.2	独自の実践によって得られた知見 .....	128
7.3	本論のインプリケーション .....	129
7.3.1	池田の4つの提起に対するインプリケーション .....	129
7.3.2	独自の実践による知見から見出されるインプリケーション .....	131
7.4	今後の課題 .....	135
	文末脚注 .....	137



参考文献..... 138

謝辭..... 144